

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」

(1、2 節)「その群衆を見て、イエスは山に登られた。そして腰を下ろされると、みもとに弟子たちが来た。そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。・・・」

先週、私たちはマタイ 4 章 23、24 節から、学びました。イエス様は会堂で教え、福音を宣べ伝え、病気をいやされました。その結果、群衆は病のいやしを求めて群がり集まったと聖書には書かれています。そんな群衆をイエス様はご覧になられました。実はそれらの群衆は、イエス様のみことばに耳を傾けようとするよりは、いやしを求める身勝手な人々でした。でも、イエス様は、そんな彼らを受け入れられました。

先週のメッセージでもお話ししましたが、人は病気がいやされても、痛みから解放されても、健康になっても、事業に成功しても、それで幸せになれるわけではありません。世の多くの人々は、自分が豊かになり、自分が楽しく、強くなるのが幸いだと考えていました。これが世間一般の考えです。でもこれでは、地上では満足し、本人は納得されているかもしれませんが、救われて、天国には入れません。イエス様が、この世に来られた目的は、すべての人々が、永遠の希望、幸せに連なる人生に歩んで欲しいと言う事でした。

「・・・腰を下ろされると、みもとに弟子たちが来た。そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。」ここでは、イエス様のすぐ前にお弟子さんたちが集まり、それを囲むように群衆が取り囲んでいます。イエス様は、そんなお弟子たちに向かって福音を語り始めました。その弟子たちへのお話を、群衆もみな聞いています。じいっと聞いています。

イエス様は、そんな人々に向かって「心の貧しい者は幸いです。」と語られました。

世間一般の考えでは、人々は、自分の心が豊かになり、自分が楽しく、強くなるのが幸いなのだと考えています。逆に多くの人々は、心が貧しいということばを、心がすさんでいる、自己卑下している、あるいは高慢になっていると、思っていました。

ある友人が年賀状に、この聖句「心の貧しい者は幸いです」を書いて出したところ、ある方から「失礼な！ 私は心の貧しい者ではありません。どういうつもりですか。」というお叱りのお返事をいただきました。繰り返しますが、確かに一般的には、「心の貧しい人」と言う場合、それは「心の狭い人、荒れすさんだ人、自分勝手な人、弱い人、無教養な人」などと言う意味で使われているようですね。ですから、その方が、「心の貧しい人が幸福なんてナンセンス」と、むしろ侮辱されたと思ったのも、当然だったのかも知れません。

——— 心豊かでありたい人々 ———

それにしても、日本人はへりくだるのが上手な国民であるようです。婦人の方々のあいさつを聞いていると口ぐせのように、「つまらないものですが、お口に合わないと思いますが、うちの子はダメなんですよ」、等々・・・と、言いますね。その様な時に、ついうっかり相手に合わせて「そうですね」などと言ってしまったら、それこそ大変なことになります。

このように確かに謙遜のポーズをとる人は多くいるのですが、謙遜な人は意外と少ないのではないのでしょうか。

——— 人は皆プライドを持っている ———

以前、教会にホームレスの人がよく来ました。。食べ物を差し上げていました。するとしょっちゅう来るようになりました。ちょっとなめられているようなので、「交番か役場に行ってみたらどうですか」と言ってみました。その方曰く、「それは困る」そして「キリスト教会ならいいが役場とか交番に行くのはみっともない」恥ずかしいらしいのです。

また「何か食べさせて欲しい」と言ってきた 40 歳位の人。「これで食べて下さい」と千円をお渡しすると。彼は言いました。「私は物もらいではないから非常に困る。何か働かせて欲しい」と言いました。また、別の人は、封筒を透かして見て「こんな、はした金で失礼な！」と言って、帰って行かれました。彼らにもプライドはあるのです。

神学者アウグスティヌスのお話です。 かつて、一人の高慢な青年がアウグスティヌスの所に来て、救いの道を尋ねました。アウグスティヌスは、すぐに答えました。「それは謙遜です」胸を突かれた青年は更に、続けて言いました。「その次に必要な事はなんでしょう？」アウグスティヌスは又も「それも謙遜です」と答えました。青年は再び「その次は？」と尋ねました。するとアウグスティヌスも語気を強めて、更に「青年よ、それもまた謙遜である」と答えました。

多くの人々は、自分は豊かでありたいと願っています。又、その様に人からも見ていただきたいと願っています。私も教会に来るまでは豊かな力に満ち溢れた人間こそが、幸いなる人であり、幸いなる人生を、自分のものにすることが出来ると思っていました。私も、その様に行きたいと願っていました。

ある人は、貧困は美德であって、貧乏に生きることが神の御旨であると思っています。

又、ある方は慎み深く、平凡に目立たぬように生きることが御旨であると思っています。

でも、どうでしょうか。①生まれつき、慎み深い性格の人もあります。謙遜は、生まれつきの性質ではありません。②謙遜を誇る人もいます。自分がどんなに謙遜な人であるかを、知ってもらおうとする人々です。 でもこのような生き方は、いかにも謙遜らしく、装（よそお）っているようにも見えますが、しかし心の貧しい者としての生き方ではないと思います。

——— 心の貧しいことと、貧乏とはちがいます ———

心の貧しいことと、貧乏とは違います。生まれながらの貧乏な人は、生まれながらの金持ちよりも天国に近いということはありません。お金持ちは、あと一億円あったらと思い、貧乏人はあと一万円あったらと思います。誰でも額は違っても、同じようにお金を欲しがり、執着し、富んでいる者をうらやみ、ねたむのです。お金以外のことでも同じかも知れません。例えば、家、車、能力、仕事、地位、業績、成功、恋愛・・・、もっと豊かに、豊かに・・・、と願うのです。

では、どのようにしたら、心の貧しい者になれるのでしょうか。

ある先生が次のように語られました。「心貧しくなりたと思ったら、決して自分で自分を見つめ過ぎないように、ただ私のために十字架で死んでくださったイエス様を、じっと見つめてください。そして、イエス様が私に期待していることを知ってください。」

——— 主イエス様を見詰める ———

そうですね。主イエス様を見つめれば見つめる程、本当の自分が見えてきます。そして、不思議と神様の前に自分がどんなに小さくて、汚れていて、自分の力では何も出来ず、何も希望がないことが分かって来るのです。その時に、イエス様の十字架が見えて来ます。十字架の救いが必要となって来ます。だから、イエス様を見つめるのです。

(ピリピ 2:6～9 節)「・・・キリストは、神の身姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。」

——— 貧しき友、アンセルモの祈り ———

今から 250 年ほど昔、南イタリアの田舎に、地主の息子で大説教家を夢見ている少年マリオと、彼の親友で、貧しい靴屋の息子アンセルモ少年がいました。マリオはやがて修道院に入り勉強するために村を出て行きました。アンセルモは「君のために祈っているよ」と約束して、マリオを見送りました。やがてアンセルモ少年もマリオと同じ修道院で召使として働くことになりました。そしてマリオの近くで、彼の学びのために日夜、祈り続けました。

やがて、マリオは司祭となり、説教をする日が来ました。心落ち着かないマリオに、アンセルモは「祈っていますよ」と伝えました。大会堂の説教壇に立ったマリオは、柱の陰で祈っているアンセルモの姿を見つけました。その日の彼の説教は人々に大きな感動を与えました。

こうして、マリオ司祭は、名説教家として名を知られる様になりました。彼の行く所にはいつも祈りの友、アンセルモがいました。

やがてマリオはローマのサン・ピエトロ寺院で説教をする栄光が与えられました。幼い時から持ち続けてきた夢がいよいよ実現する時が来たのです。今、彼は自信に満ちあふれていました。しかし、サン・ピエトロ寺院での説教に人々は感動しませんでした。彼は「失敗したのだ」と感じました。その日、マリオは祈りの友アンセルモを探しました。そして、知ったのは、その日の朝アンセルモはすでに天に召されたという事でした。

数日後、粗末なアンセルモの墓の前で一心に祈っているマリオを修道院長がを見つけました。修道院長は尋ねました。「マリオ司祭、あなたは再び、名説教が出来るように祈っているのですか」マリオは振り返ると静かに答えました。「いいえ、私は神様から、アンセルモのような謙虚さを、貧しい心をいただけるようにと祈っているのです。」と、答えました。

イエス様は、「心の豊かな人は幸いです」と言われませんでした。

イエス様は、むしろ「心の貧しい（みじめな、乏しい）者は幸い（神様の祝福がある）です」と言われたのです。なぜでしょう。

——— 心の貧しい者への3つの祝福 ———

それは「心の貧しい者は」次の3つの祝福をいただけるからです。

- ① イエス様は、心の貧しい者の友となって下さいます。
- ② イエス様は、心の貧しい者を愛して下さいます。
- ③ イエス様は、心の貧しい者を天国に導いて下さいます。

（天国の門は、低いのです。狭き門です。頭を低くしないと、謙遜にならないと、入れません。）

3節をお読みします。

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」